

# 環境報告書

## 2022



基幹教育院  
共創学部  
カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所

## 目次

---

トップメッセージ	.....	1
第1章 環境配慮活動に向けて		
○ 概要	.....	2
○ 環境マネジメント体制	.....	3
○ 環境活動計画と目標	.....	4
第2章 環境教育・研究と環境保全		
○ 新入生に対する環境・保全教育	.....	5
○ 環境関連の授業科目	.....	6
○ 安全管理	.....	7
第3章 エネルギー・資源の削減		
○ 資源、エネルギー、廃棄物	.....	8
○ エネルギー関係のデータ	.....	9
○ 用紙類の使用量削減、グリーン購入	.....	10
○ 生活系ごみ	.....	11
第4章 化学物質の管理		
○ 実験系廃棄物	.....	12

## トップメッセージ

---

九大学研都市駅から学園通を西北に進み、ガラス張りの陸橋の下を通り抜けると、九州大学伊都キャンパスの入口、センターゾーンに至ります。右折すれば、約 3,000 人収容可能な円形のメインコンサートホールを持つ椎木講堂、収蔵能力 350 万冊を有する国内最大規模の図書館である中央図書館、最先端研究をけん引するカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所を経て、文系学部があるイーストゾーンへとつながります。左に折れれば、センターゾーンから、理学部、工学部、農学部があるウエストゾーンへと続きます。

伊都キャンパスは、福岡市西区と糸島市にまたがる東西約 3km、南北約 2.5km、275ha の広大な敷地をもち、そこで教育・研究・学習を行う教員・学生数は万単位で数えられる膨大なものです。センターゾーンを挟んで、イーストゾーンとウエストゾーンにまたがる人や物の往来も激しいものとなっており、このような人の流れにより新たに生じてくる環境問題へも迅速に対応していかねばなりません。

九州大学では、伊都地区協議会のもとに、教職員・学生の代表からなる環境対策 WG を設置し、環境 NPO 団体や地元住民の方々と力をあわせて、キャンパス内の植樹・美化・環境保全活動に取り組み、日々、環境に配慮したキャンパス作りに励んでいます。また、健康に配慮するキャンパスとして、伊都キャンパスには診療所（伊都診療所）が 2019 年 1 月から開所しており、2019 年 9 月からは敷地内全面禁煙が実施されています。さらに、新型コロナウイルス感染症をはじめとした様々な感染症への対策に十分な配慮を行い、教員と学生を中心とする各構成員がキャンパスにおいて日常的に教育研究活動を共に実施してきた大学であるという本学の原点に立ち、令和 4 年度以降も様々な活動を行ってまいります。

センターゾーンは、およそ 2,700 人の初年次学生のための基幹教育が行われる学びの場であり、センターゾーン独自の環境問題が生じることも考えられます。しかしながら、他ゾーンとの連携を取りながら、環境整備・バリアフリーの基本理念に則り、学内の環境保全・整備を積極的に進めていくことが肝要となっています。そして、国連が提唱する「持続可能な開発のための教育」(Education for sustainable development) に寄与していくことが大事です。皆さまとともに行う取組の成功を期待しております。

2022年(令和4年)5月1日

基幹教育院長 谷口説男

# 第1章 環境配慮活動に向けて

## 概 要

部局名 基幹教育院、共創学部、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所

所在地 〒819-0395 福岡市西区元岡744

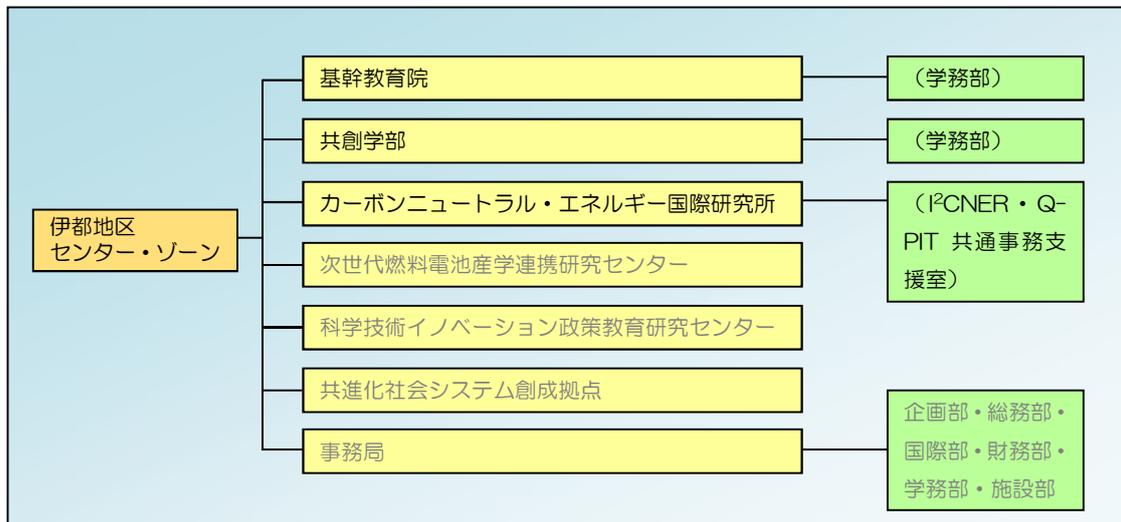
### 沿革（概略）

平成23年10月 基幹教育院設置

平成24年12月 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所設置

平成31年 4月 共創学部設置（比文言文教育研究棟をセンター5号館に名称変更）

### 伊都地区センター・ゾーンの組織



### 対象建物

センター1～3、5号館

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所第1研究棟、第2研究棟

### 報告期間

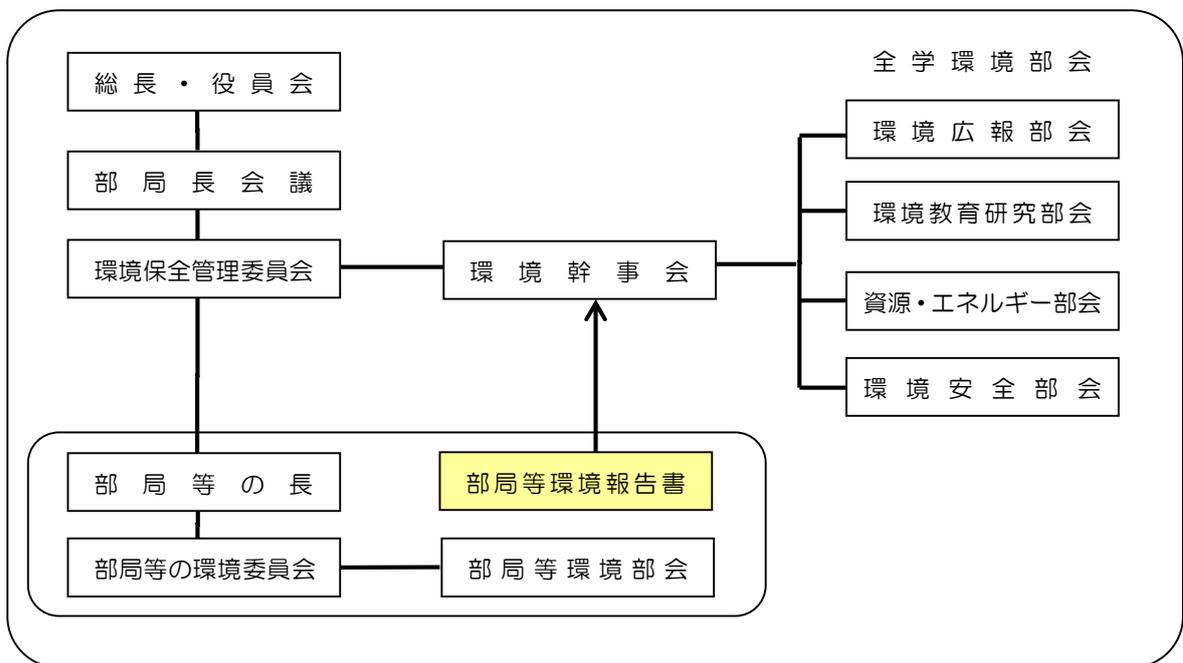
「環境報告書2022」の記載内容は、2021年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）の取組、実績値を中心にまとめ、一部、令和3年4月1日以前及び令和4年3月31日以降の取組や活動データが含まれています。

## 環境マネジメント体制

平成17年4月1日施行の「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」（環境配慮促進法）を受け、本学では「環境保全管理委員会」の下に、環境広報部会、環境教育部会、資源エネルギー部会及び環境安全部会の4つの部会が設置され、環境マネジメント体制が整備されました。

このことに伴い、環境配慮の取り組み体制を構築しています。

環境マネジメント体制



## 環境活動計画と目標

令和3年度の環境目標に対する評価及び令和4年度の目標を以下に示します。

事 項	令和3年度目標	令和3年度の評価	令和4年度目標
組織・体制	カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所とも連携のうえ、報告書を作成する。	基幹教育院・共創学部、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所とあわせ、報告書を作成した。	基幹教育院・共創学部、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所と報告書を作成する。
温暖化対策	引き続き、エネルギー使用量の削減に努める。	照明については、修繕並びに小規模改修の際、LEDへの転換をすすめた。	引き続き、エネルギー使用量の削減に努める。
資源・循環	引き続き、リサイクルシステムの利用拡大を推進する。	通知等を積極的に行い、リサイクルシステムの利用拡大を推進した。	引き続き、リサイクルシステムの利用拡大を推進する。
	古紙類の再利用を推進し、古紙類再生の徹底を図る。	古紙用の保管容器の活用等により、再生用古紙の分別、裏紙の利用を推進した。	古紙類の再利用を推進し、古紙類再生の徹底を図る。
グリーン購入	引き続き、九州大学グリーン調達方針に基づき、調達を行う。	九州大学グリーン調達方針に基づき、調達を行った。	引き続き、九州大学グリーン調達方針に基づき、調達を行う。
化学物質管理	引き続き、薬品管理システムへの登録漏れがないよう、努める。	関係者に利用状況調査及び利用促進の通知をして登録漏れがないよう、努めた。	引き続き、薬品管理システムへの登録漏れがないよう、努める。
	引き続き、全学で実施している薬品処分で処理する。	廃薬品については、全学の薬品処分で処理した。	引き続き、全学で実施している薬品処分で処理する。

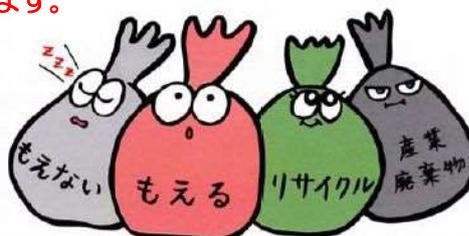
## 第2章 環境教育・研究と環境保全

### 新入生に対する環境・保全教育

#### 私達の手できれいな環境を

- ①未成年者の喫煙は禁止されています。  
また、令和元年9月1日から敷地内は全面禁煙となっています。
- ②ゴミの分別収集に協力しましょう。（ゴミは指定したくずかごへ）
- ③公共の施設・備品を大切にしましょう。

九州大学の学生としての自覚を期待します。



### 環境にやさしい学園祭

平成19年度(第60回)の九大祭から、九州大学環境サークル・Ecoaが中心となって、環境に配慮したバイオマスカップ、リサイクル食器「ホッかる」、そして使用後は竹炭となる竹割ばしを使用し、環境意識向上やごみの減量に取り組み、成果を上げてきました。平成21年度(第62回)からは、その取組を発展させ、リサイクル食器に代わり、リユース食器の導入により、ごみの排出量をさらに削減し、資源の循環型システムの構築と環境負荷の軽減を図っています。



リユース食器「平皿」



バイオマスカップ

リユース食器は、プラスチック等の素材でできており、使用後は回収・洗浄した後に再び食器として使用しました。バイオマスカップは、トウモロコシから作られており、ケミカルリサイクルという手法で、リサイクルが可能です。カップの側面には、環境省認定のバイオマスマークがプリントされています。



バイオマスマーク

また、ごみの減量のため、「リサイクルステーション」という回収ブースを会場内に設け、ごみの15品目分別回収を実施しました。また、生ゴミ処理機を設置して、生ゴミの堆肥化にも取り組んでいます。

## 環境関連の授業科目

---

環境に関連した内容を含む授業科目は、以下の基幹教育科目です。

文系ディシプリン科目	地理学入門 The Law and Politics of International Society
理系ディシプリン科目	身の回りの化学 生命の科学A 生命の科学B 生物学概論 集団生物学 生態系の科学 地球科学 最先端地球科学 地球と宇宙の科学
高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学 環境調和型社会の構築 グリーンケミストリー 地球の進化と環境 生物多様性と人間文化A 生物多様性と人間文化B 遺伝子組換え生物の利用と制御
総合科目	水の科学 身近な地球環境の科学A 身近な地球環境の科学B 伊都キャンパスを科学するⅠ（軌跡編） 伊都キャンパスを科学するⅡ（現在編） 伊都キャンパスを科学するⅢ（展望編） 糸島の水と土と緑 体験的農業生産学入門 放射線とは何だろうか？ 教養の放射線科学と原子力Ⅰ 教養の放射線科学と原子力Ⅱ 大気と海洋の環境学入門A 大気と海洋の環境学入門B 森林科学入門 水圏生態環境学入門 環境と安全Ⅰ 環境と安全Ⅱ 「自炊塾」基礎編 「自炊塾」応用編

## 安全管理

---

### ○ 安全管理体制

安全管理体制については、労働安全衛生法及び九州大学職員安全衛生管理規程等に基づき、「伊都地区センター・イースト安全・衛生委員会」を設置し、総括安全衛生管理者、衛生管理者、産業医、作業主任者等を配置し、事業場の安全衛生管理の徹底に努めています。

また、衛生管理者による職場巡視では、環境保全に配慮した観点から改善指導等に取り組んでいます。

### ○ 毒物及び劇物の安全管理

毒物及び劇物による事故や環境汚染の防止に備え、「九州大学化学物質管理規程」の定めるところにより、対象薬品等を厳重に管理しています。

また、毒物や劇物を取り扱う研究室においては、施錠可能な金属製保管庫を設置し、化学物質管理支援システムにより、常に在庫量及び使用量を把握しています。

### 第3章 エネルギー・廃棄物の削減

#### 資源、エネルギー、廃棄物

---

##### ○ エネルギー使用量

電気	4,001,752 [kwh]
ガス	122,287 [ m <sup>3</sup> ]

##### ○ 水道使用量

市水	2,189 [ m <sup>3</sup> ]
トイレ用水	4,448 [ m <sup>3</sup> ]
実験用水	2,394 [ m <sup>3</sup> ]

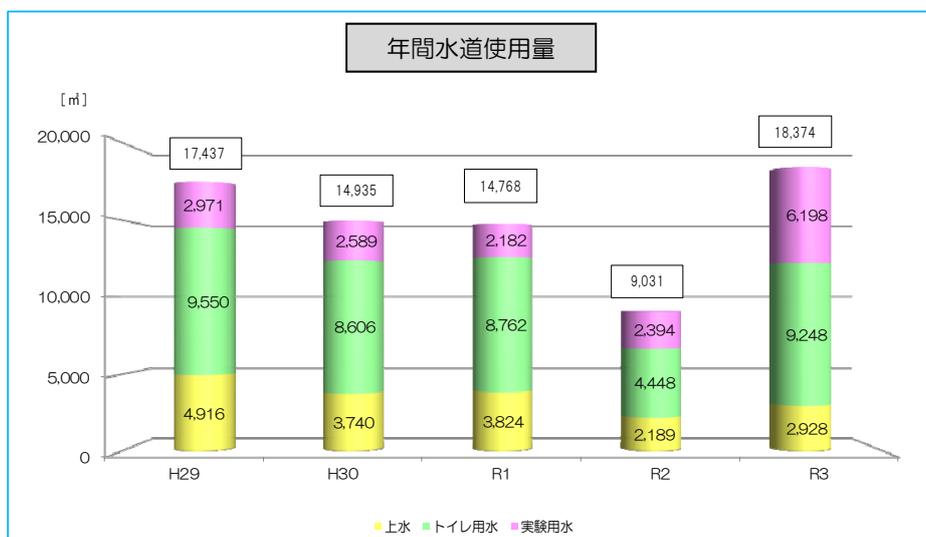
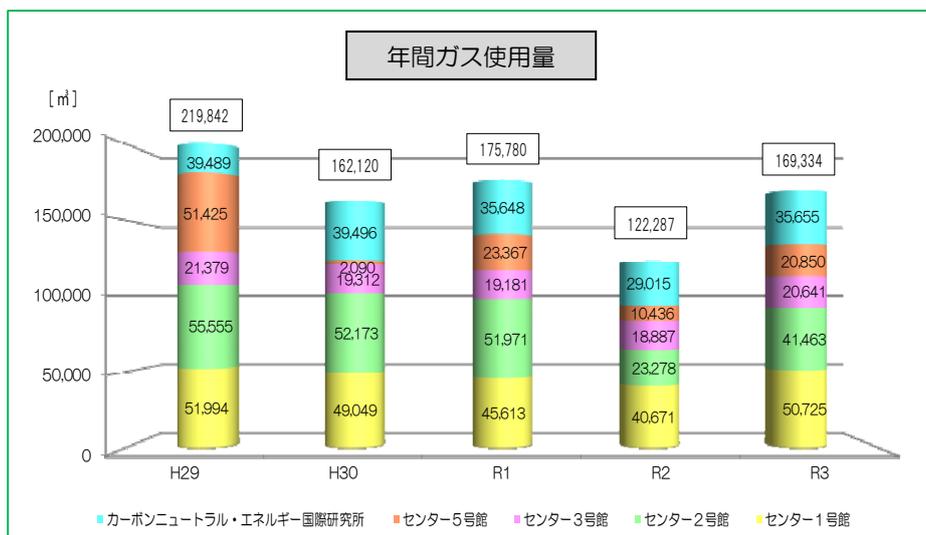
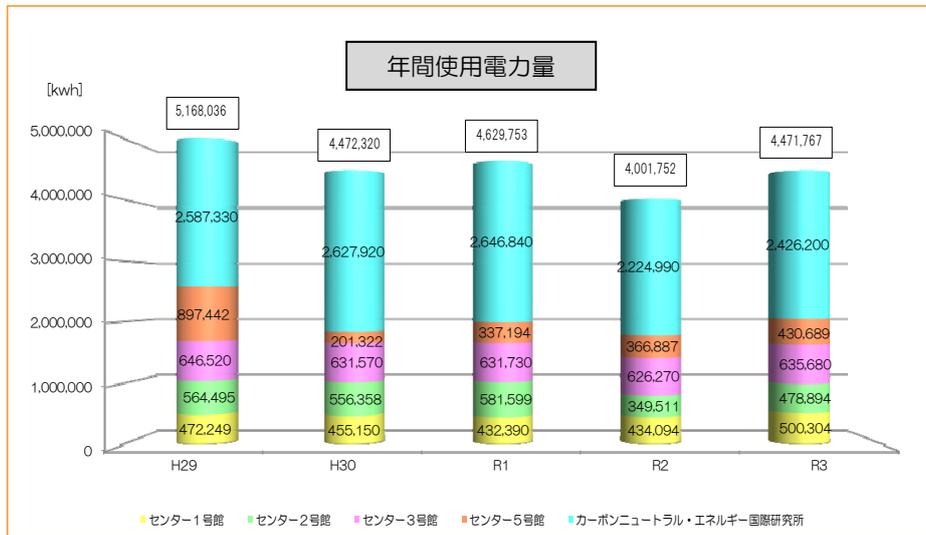
##### ○ 分別ゴミ

種別	数量	処理法
可燃ごみ	225 [m <sup>3</sup> ]	焼却
金属くず	1,454 [kg]	再生
瓶	1,006 [kg]	再生
発砲スチロール	25 [kg]	再生
蛍光管	15 [kg]	再生
乾電池	59 [kg]	再生
不燃ごみ	881 [kg]	埋立
有害付着物	1,345 [kg]	焼却

##### ○ 実験系廃棄物

種別	数量	処理法
無機系廃液	1,200 [ℓ]	再生
有機系廃液	4,431 [ℓ]	焼却
廃薬品	56 [本]	埋立
実験系可燃物	3,361 [kg]	焼却

# エネルギー関係のデータ



## 用紙類の使用量削減、グリーン購入

### ○ 用紙類の使用量削減

両面コピー、裏紙の利用等に努め、限られた資源に配慮し、用紙類の使用量削減に取り組んでいます。

### ○ グリーン購入

処理紙片の再資源化が可能であり、環境に優しい廃棄処理を実現するシュレッダーの購入など、九州大学グリーン調達方針に基づく調達を行っています。

グリーン購入基準適合製品

分 野	摘 要
紙類、文具類	コピー用紙等、文具
機器類	事務機器等
OA機器	電子計算機等
家電製品	電気冷蔵庫等
エアコンディショナー等	エアコンディショナー等
温水器等	電気給湯器等
照明	蛍光灯等
自動車等	自動車
消火器	消火器
制服・作業服	作業服等
作業手袋	作業手袋
その他の繊維製品	ブルーシート等
役務	印刷等

### ○ リサイクルシステムの利用

不用品の譲渡照会を行い、リサイクルシステムの利用拡大を推進しています。

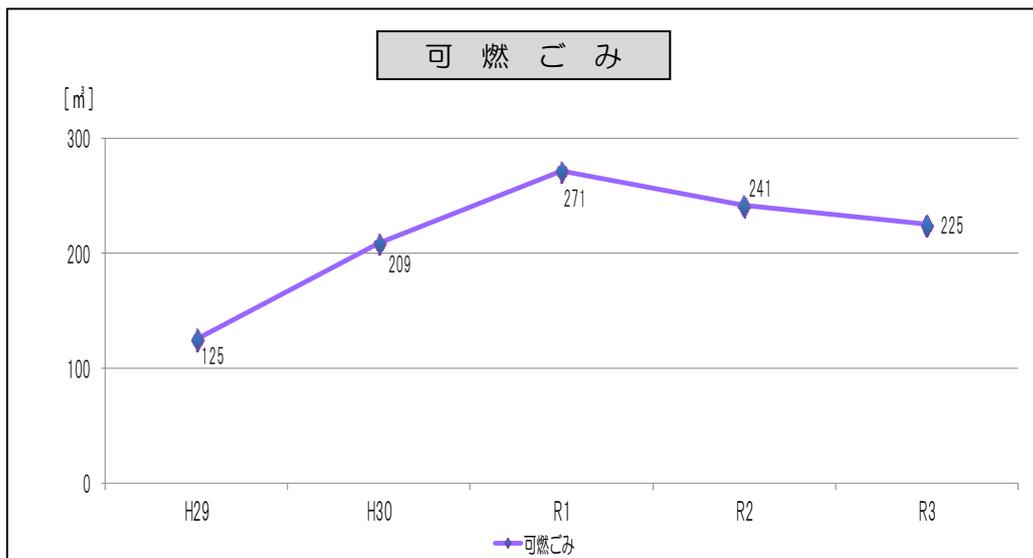
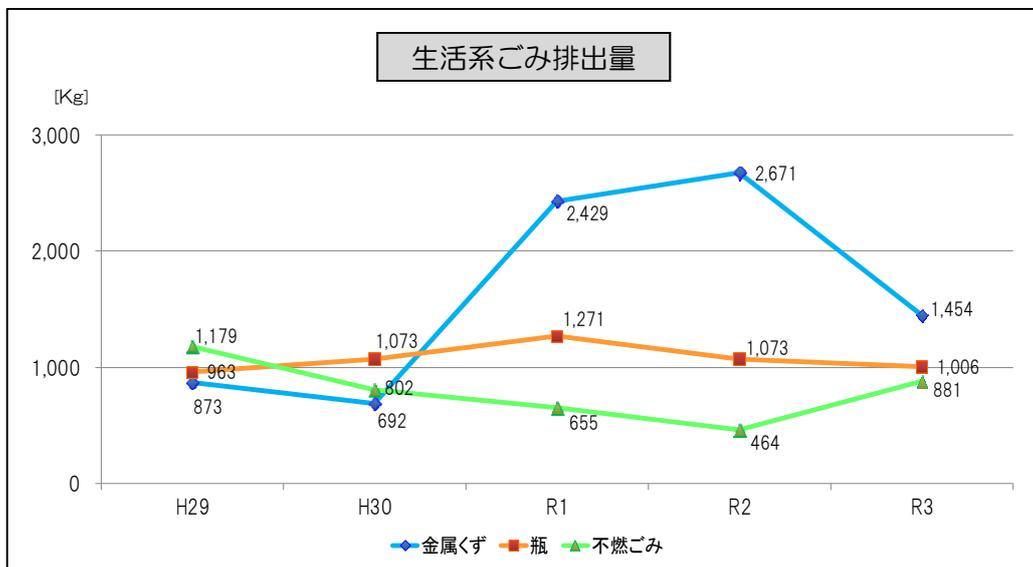
## 生活系ごみ

本学では、平成8年からごみの分別の取り組みを始めました。

基幹教育院・共創学部においても、廃棄物の再資源化を目指し、分別に取り組みました。

再資源化できるものは、全学的な取組により回収業者に依頼しています。また、飲料缶、ペットボトルは、エコセンターにて回収し、再資源化処理を行っています。

今後も教職員の意識を啓発し、ごみの分別のさらなる徹底（紙くずの可燃ごみの分別）により、減量化・再資源化の推進を図ります。



## 第4章 化学物質の管理

### 実験系廃棄物

教育・研究から発生する廃棄物は、産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）として、市及び県からの運搬・処分許可をもつ業者により適正に処分しています。

有機系廃液、無機系廃液は月1回、廃薬品は年1回、環境安全センターを通して、処分しています。薬品瓶は汚染度によって、「資源化瓶」、「不燃ごみ」、「有害付着物」として処理します。「有害付着物」は重金属を回収し、残った瓶はセメント原料として、再利用しています。

